

もがみ大豆だより

第4号<適期収穫編>

令和4年10月5日

最上総合支庁 農業技術普及課

TEL：29-1333（作物担当）

大豆収穫のポイント！

- ①汚損粒、損傷粒を発生させない！
- ②適期収穫、適正乾燥で品質低下防止！

最上管内の大豆は葉の黄化、落葉が始まり、まもなく成熟期となります。圃場ごとの成熟状況を把握して、適期に、効率的に収穫できる刈取計画を立てましょう。また、悪天候が多くなることも考慮し、早めに作業体制を整えましょう。



6/13 播種 里のほほえみ圃場 10/3 現在

1 青立ち株、残存雑草の搬出

- ・圃場内の青立ち株や残存雑草がある。
- ⇒収穫時に巻き込むと、汚損粒発生の原因になる。
- 収穫前に圃場を見回り、青立ち株や残存雑草を取り除く。
- ⇒汚損粒等による品質低下の防止、茎水分の速やかな低下に繋がる。

残存雑草の一例
オオイヌタデ



2 適期収穫

収穫適期は①成熟期後の日数、②大豆の外観を見て判断する。

- ・「成熟期」は葉が黄変して落葉し、茎や莢が品種特有の色（「里のほほえみ」や「リュウホウ」は薄茶～茶色）となった時期。
- ・成熟期は播種時期、品種、地域等によって異なるため、よく圃場を観察して判断する。
- ・「リュウホウ」「シュウリュウ」は収穫が遅れると裂莢し、子実が脱落してしまうので、収穫適期になったら速やかに収穫を始める。

① 成熟期から見た収穫適期

品種	成熟期 (6/5 頃 播種)	収穫適期
リュウホウ シュウリュウ	10/12 頃	10/19～11/1 頃 (成熟期後 7～20 日)
里のほほえみ	10/18 頃	10/25～11/17 頃 (成熟期後 7～30 日)

② 外観から見た収穫適期



最上地域の10～11月は天候不順になりがちです。
脱粒、品質低下を防ぐため、適期内の収穫に努めましょう！

3 汚損粒・損傷粒対策

- ・ 2～3日晴天が続き、茎や莢の水分が低下したことを確認し、収穫作業を開始する。
- ・ 収穫時の土混入、朝露等が残っている状態での刈り取り、収穫時の雑草混入は厳禁。
⇒汚損粒、損傷粒の発生の原因になる。
⇒以下の方法等で対応する。

①コンバインの刈刃を適正な高さに調整する

- ・ 収穫時の刈刃が低い。
⇒土が混入する。汚損粒の発生原因だけでなく、小石等の異物混入の原因。
- 極端に刈刃を低くせず、土を巻き込まない高さを保つ。

②露の影響がある、朝方および夕方時の刈り取りを避ける

- ・ 朝夕の刈り取りは、茎の水分が高い。
⇒コンバイン内にゴミが付着しやすくなり汚損粒が増える。
- 収穫作業は露の影響がない11時から16時頃までに行う。

4 適切な乾燥調整

- ・ 大豆は、収穫時期が早く子実の水分が高い場合、損傷粒やしわ粒が発生する。
⇒高水分のものを収穫した場合は、収穫後すぐに通風乾燥を行う。

乾燥機利用上の注意！

☑ 急激な乾燥を避け、ゆっくりと丁寧な乾燥を心がけましょう

乾燥中の裂皮、しわ粒の発生を避けるため、送風温度は外気温度+10℃を目安とし、30℃以下で乾燥しましょう。子実水分が18%を越える場合や、張り込み量が少ない場合は、送風温度をさらに低めにする必要があります。

～農作業安全の主役は、あなた！～

①作業前の安全確認、環境整備

- ・ 路肩が草で隠れていませんか？
- ・ 障害物はありませんか？
- ・ 危険箇所に目印をつけましょう。

機械トラブル発生

→即エンジン停止！！
→対処はそれから！

②作業に適した服装

- ・ 機械に巻き込まれない適切な服装で作業をしましょう。
(短期間であっても、保護メガネ、マスク、ヘルメット等を着用する。)

③点検整備は必ずエンジンを止めてから

- ・ 定期点検は実施していますか？
- ・ シートベルト、安全フレーム、安全キャブはついていますか？
- ・ 機械から降りる時は必ずエンジンを止めましょう。

令和4年度秋の農作業安全運動 9月1日～10月31日
秋は農作業事故の多い時期です！！
農作業事故ゼロで稔りの秋を迎えましょう！